

DVD 『ざくろ屋敷』

(作画：深澤研・脚本・監督：深田晃司／48分／発売元：東映アニメーション、販売元：幻冬社、¥2,980)

静止画にナレーションと台詞および音楽を組み合わせたもので、制作側は「画ニメ」と呼ぶジャンルの作品である。原作にほぼ忠実であるが、作画によってバルザック特有の長い描写をカットし、また「画ニメ」作品としての緊密性を確保するために、シーンごとに若干の編集と補足が加えられている。総じて、非常に気品と味わいのあるものに仕上がっている。劇団員による朗読も素晴らしいが、作品の雰囲気を作り出す美術効果と音楽に並々ならぬ精力が傾けられたことが窺われる。

『ざくろ屋敷』を映像作品化する場合、おそらく、スポットをよりブランドン夫人のほうに当てるか、よりルイのほうに当てるかで味わいが違ってくる。この作品では前者で、山場はブランドン夫人の死にある。彼女の命が徐々に衰弱し、ろうそくの炎が燃え尽きるように消えてゆくシーンは大変見事で、原作を独自に解釈して、かつて社交界の花であった夫人の、消え行く「貴族の時代」に殉死するかのような美しい死を、静かな深い余韻を残して表現している。

なお、この作品は、2008年パリで開かれたキノタヨ KINOYAYO 映画祭のコンペ部門に出品され、ソレイユ・ドール Soleil d'or 新人賞を受賞している。

もっと知りたい人

→ 「映画『ざくろ屋敷』と『人間喜劇』について」<http://www.rku.ac.jp/~sano/Grenadiere.pdf>